

企業会計基準委員会（ASBJ）の活動

2018年7月5日

企業会計基準委員会

<日本基準の開発>

- 我が国の会計基準を国際的に整合性のあるものとするための取組み
- その他の日本基準の開発

<国際的な意見発信>

- のれんの償却
- 当期純利益/OCI
- 仮想通貨

日本基準の開発

我が国の会計基準を国際的に整合性のあるものとするための取組み



- 中期運営方針（2016年8月）における基本方針
 - 我が国の上場企業等で用いられる会計基準の質の向上を図るためには、日本基準を高品質で国際的に整合性のとれたものとして維持・向上を図るとともに、国際的な会計基準の質を高めることに貢献すべく意見発信を行っていく必要があると考えられる。

- 日本基準を高品質で国際的に整合性のとれたものとするための取組み
 - 収益認識
 - ⇒2018年3月30日に最終基準を公表
 - 公正価値測定に関するガイダンス及び開示
 - ⇒会計基準の開発に着手し、公開草案の公表に向け検討中
 - 金融商品
 - ⇒会計基準の開発に着手するか否かを決定する前の段階で、適用上の課題とプロジェクトの進め方に関する意見募集を行う予定
 - リース
 - ⇒会計基準の開発に着手する否かを検討中

■ 最近開発した主な会計基準等

- 従業員等に対して権利確定条件付き有償新株予約権を付与する取引に関する取扱い（2018年1月）
- 税効果会計に係る会計基準の一部改正（2018年2月）
- 資金決済法における仮想通貨の会計処理（2018年3月）
- マイナス金利下における退職給付債務の割引率（2018年3月）

■ 公開草案を公表中の会計基準等

- 実務対応報告第18号「連結財務諸表作成における在外子会社等の会計処理に関する当面の取扱い（案）」等の改正

国際的な意見発信

■ IASBの審議の状況

- 「のれん及び減損」を、リサーチ・プロジェクトとし、2015年2月より審議を行っている。
- 2018年4月までのIASB会議における、のれんの会計処理に関する主な暫定決定事項は以下のとおりであった。
 - のれんの減損損失の認識が遅すぎる、又はその金額が少なすぎる問題（いわゆる「too little, too late」の問題）への対処として、ヘッドルーム・アプローチの導入による減損テストの改善を検討する。
 - のれんに関する開示の拡充を検討する。
 - のれんの償却について支持しない。
- 2018年4月のASAF会議では、ヘッドルーム・アプローチに賛同する意見は聞かれなかった。
- 2018年5月のIASB会議において、ヘッドルーム・アプローチのみを扱うディスカッション・ペーパー等を公表する案は棄却されている。また、同会議においては、仮にディスカッション・ペーパーを公表する場合には、のれんの償却や即時償却についても記載すべきとの発言が聞かれている。

■ FASBの審議の状況

- これまでののれんの会計処理について以下の改訂を行っている。
 - のれんの減損テストアプローチの簡素化
 - 非公開企業に限定して、10年（又はそれより短い）期間でのれんを償却することの選択を可能にするための改訂
- 非公開企業に認めているのれんの会計処理の選択肢を、公開企業に広げるかに関する議論を、2018年の第3四半期から始める予定である。

■ これまでのASBJの意見発信

- リサーチ・ペーパー第2号「のれん及び減損に関する定量的調査」（2016年10月）
- リサーチ・ペーパー第3号「のれんを巡る財務情報に関するアナリストの見解」（2017年6月）
- ASAF会議アジェンダ・ペーパー『「too little, too late」の問題への対処として考えられるアプローチ』 - のれんの償却の選択適用に関する提案（2017年7月）

- IASBは、2018年3月に概念フレームワークの改訂を確定させている。
- 改訂概念フレームワークにおいて、当期純利益/OCIについては以下のとおり記載されており、原則的にOCIはリサイクリングすることが明示されている。
 - 純損益計算書は、当期の企業の財務業績に関する情報の主要な源泉である。
 - 原則として、すべての収益及び費用は純損益計算書に含める。ただし、当期の純損益計算書で提供される情報の目的適合性又は財務業績の忠実な表現が、資産又は負債の現在価額の変動をその他の包括利益（OCI）に含めることによって高められる場合を除く。
 - 原則として、OCIに含めた収益及び費用は、リサイクリングによって純損益計算書の情報の目的適合性又は財務業績の忠実な表現が高められる将来の期間にリサイクリングする。ただし、OCIに含めた収益及び費用がリサイクリングされない場合がある。例えば、純損益計算書で提供される情報の目的適合性又は忠実な表現を高めるためにリサイクリングを行うべき期間又はリサイクリングすべき金額を識別するための明確な基礎がない場合である。
- ASBJは、今後も他国の会計基準設定主体等と連携して、当期純利益の有用性に関する意見発信を継続する予定である。

- 2018年4月に開催されたASAF会議において、仮想通貨について、以下の意見発信を行っている。
 - 2018年3月に公表した「資金決済法における仮想通貨の会計処理等に関する当面の取扱い」の紹介
 - ASAF会議アジェンダ・ペーパーの提出

(参考1) 欧州委員会 (EC) によるフィットネス・チェック

- 2018年3月にECにより協議文書「企業による公開の報告のためのEU版フレームワークに関するフィットネス・チェック」が公表されている（コメント期限：2018年7月21日）。
 - 協議文書の目的は、企業による公開の報告のためのEU版フレームワークが、その目的を果たしてしているかどうかに関する関係者の意見を募ることにある。
 - EUにおけるIFRSのエンドースメント手続について、関係者に対して意見を求めている。
 - IASBが公表した会計基準が、長期投資及び持続可能性といったEUの政策的な目標を実現する上で障害となる場合でも、その内容を変更することができないため柔軟性に欠けるとの懸念について、どう思うか。
 - IASB議長及びIFRS財団のTrustee会議議長が、協議文書に関する声明を公表している。

(参考2) 国際会議への参加

- 2017年10月以後、以下の国際会議に参加している。
 - 第9回アジア・オセアニア会計基準設定者 (AOSSG) 年次会議 (2017年11月、杭州)
 - 日中韓3カ国会議 (2017年11月、杭州)
 - フランスの会計基準設定主体 (ANC) との会合 (2017年12月、パリ)
 - ASAF会議 (2017年12月、ロンドン)
 - 多国間ネットワーク会議 (2018年1月、京都)
 - 米国財務会計基準審議会 (FASB) との第23回定期協議 (2018年1月、東京)
 - 香港の会計基準設定主体 (HKICPA) との会合 (2018年3月、香港)
 - オーストラリアの会計基準設定主体 (AASB) との会合 (2018年3月、メルボルン)
 - 会計基準設定主体国際フォーラム (IFASS) 会議 (2018年4月、ムンバイ)
 - ASAF会議 (2018年4月、ロンドン)
 - イタリアの会計基準設定主体 (OIC) との会合 (2018年4月、ローマ)
 - 新興市場国グループ (EEG) 会議への参加 (2018年5月、クアラルンプール)

